

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3072500436
法人名	社会福祉法人 熊野福祉会
事業所名	グループホーム熊野本宮園
所在地 (電話番号)	和歌山県田辺市本宮町字田平630-1 (電話) 0735-42-1838
評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会
所在地	和歌山市手平2丁目1-2
訪問調査日	平成 19年 10月 4日

## 【情報提供票より】(19年8月1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成17年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算 5.3人	

## (2)建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	木造 造り	
	1階建て	1階 ~ 1階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,480 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900円		

## (4)利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.2 歳	最低 76 歳	最高 96 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	社会保険紀南病院、小淵歯科医院
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

木をふんだんに使った建物の大きな窓からは豊かな自然の景色が手にとるように眺められ、引いた温泉で入浴でき保養地にいるようなゆったりとした気分で過ごせる。また利用者、職員ともにこの地域の住民であり、職員の中には自治会や学校、消防団の役員をしている人もいて開設当初より地域密着型の運営がなされている。昨年の外部評価の課題に対しては職員が一丸となって取り組んだ結果、全てに改善がみられる。さらにキャラバンメイトの登録をして認知症サポーター養成講座を開くなど高齢者、認知症への理解に関して地域貢献を果たしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で指摘を受けた課題については真摯に受け止めており、全職員での改善に向けた取り組みにおいて改良されている。生活空間づくりについては出来る限り家庭的にしつらえられ、各部屋の目印なども工夫されている。介護計画も一部東京センター方式を取り入れ、個別ケアの充実を図っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員が評価の意義を理解し、今回の自己評価についても皆で話し合ったものを管理者がまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されホームの近況や評価についての話題、また出席者からの質問、意見などが出されている。また行政担当者もホームの良き理解者となっており、アドバイスしてもらっている。これらを参考にサービスの質の向上に活かす取り組みがなされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の暮らしぶりは面会時、また電話等で個々に詳細に報告して家族から意見等を出しやすい雰囲気をつくっている。また昔なじみが多いだけに意見を出すのに遠慮があるので運営推進会議等で努めて意見を引き出すようにして、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者、職員とも地域の住民であり、昔なじみの関係が保たれている。職員が自治会や消防団の役員をしており、ホームは孤立することなく、地域にとけ込んだ運営がなされ地域の子ども達との交流も盛んである。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「尊厳を大切に」というホーム独自の理念を掲げており、全職員で共有している。	○	実際の取り組みの上では地域密着型サービスとしての役割は果たせており、評価できるものであるが、これまでの理念にプラスして地域密着型サービスとしての理念を盛り込んだものをつくりあげるよう期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	母体法人に創設以来掲げられている基本理念と共にホームの理念についても実践に向けて取り組んでいる。	○	今ある理念に加え、地域密着型サービスとしての理念を構築し、意識して日々のケアに反映する事が望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員も利用者も同地域の人で馴染みの関係となっており、職員が自治会や消防団の役員をするなど当たり前のように地域にとけ込んだ運営ができています。互いの行事の際には更に交流を深めることができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は評価の意義を理解しており、外部評価で指摘された点に対しては皆で話し合い、サービスの質の向上につなげるための取り組みが進められている。今回の自己評価は全員で話し合い、管理者がまとめた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開かれており、ホームの近況報告や参加者からの多様な質問や意見が出ており、それらをサービス向上に活かせるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者がホームに対する良き理解者となっており、いろいろアドバイスをしてくれ、共に地域密着型のサービスに取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態は家族面会時、または電話で報告しており、さらにホームだよりを3ヶ月毎に発行して日常の様子を知らせている。金銭管理についても3ヶ月に1度、収支表を送付し、ホームがコピーを保管している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情窓口を明示している。また運営推進会議の場を利用して意見を出してもらえるよう働きかけている。外部評価の家族アンケートの集計結果を運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設時より職員の異動は極力抑えている。異動した職員については利用者のダメージを考慮し、昼休みなどに顔を出してもらい安心してもらうような配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修、調理研修等機会ある毎に受講を勧めている。また介護福祉士の資格を持った人が講師役で資格取得の勉強会を開催している。新任職員には約1ヶ月かけて管理者等が付き添い働きながら学べる機会を作っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームの開設者研修等を通じて交流し、サービスの質の向上へ向け取り組んでいる。またグループホーム連絡協議会にも加入し、積極的に情報交換に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にご本人や家族の方に見学をしてもらっている。利用者とお茶を飲んでもらったりして納得のいくような支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居時アセスメントや家族からヒヤリングした生活歴などから得意なこと、好きなことを探っている。元保育園長には人前での挨拶を全面的に任せたり、料理の好きな人からはコツなどを教わったりして学んだり、支え合う関係を作っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事時あるいはティータイムなどゆったりした時間に今までやってきた好きなこと、またどう過ごしていきたいかなど、話しかけながら利用者の意向をつかむようにつとめている。ケース記録にも本人の発言をそのまま書き留める等して参考にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がその人らしく暮らしていけるように東京センター形式を一部採用した介護計画を立てており、家族や職員等の意見やアイデアをその中に反映させている。申し送りノートを活用し、職員全員で計画を共有している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に一度のケース会議の場で家族等の要望を取り入れながら見直しを検討している。また変化のある時はその都度対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の協力が得られる利用者には定期・不定期の自宅への外泊支援、クリニックを受診する方の為の送迎や季節を味わう遠足に出かける等の柔軟な支援がなされている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域にあるクリニックがかかりつけ医で、利用者が昔から馴染みがある。またホームでの毎日の健康チェック表も提示し、連携のとれた納得のいく医療支援がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した時の対応については日ごろから本人、家族、主治医らと共に話し合い、方針を決め全員で共有している。最近利用者のターミナルケアが行われ全員で共有が図れた。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	親しみのある会話や対応の中にも利用者の誇りやプライバシーを損ねることのない配慮がなされている。また記録等の個人情報の扱いには同意書をとる等、慎重に扱われている。また利用者の写真掲載があるホームだよりは、家族以外には一般には公開せず運営推進会議に出すに留めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの都合に合わせるのではなく一人ひとりのペースにあわせて希望を聞き、臨機応変に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家菜園や地元で採れた食材をふんだんに取り入れており、味付けは職員がしているものの、準備から食事、片づけに至るまで職員と利用者が一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	川の流れや木々の緑を眺めながらの温泉入浴を楽しめている。「昼間のお風呂は贅沢でいいね」の利用者の声で現在は昼間に入っている。今のところ希望はないが今後夜間入浴も視野に入れた検討もしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、食事作り、行事の際の対外的な挨拶等、アセスメントや生活歴から聞き取った得意なこと、好きなことを活かして生活の張りにしてもらおうよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	同一敷地内のデイサービスに出かけたり、ドライブや買い物等に行ったりと、閉じこもらないような支援がなされている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を職員全員が認識している。8時～夕方6時まで施錠はしていない。徘徊する方もおられるが近隣の協力が得られる中、きめ細かな見守りでカバーしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の立ち会いの元、地域の人も含めて、法人全体での避難訓練(内1回は夜間帯を想定しての訓練)をしている。管理者が地元消防団に属しており、地域住民と協力しあえる関係が構築されている。また災害の発生時に備えて米の備蓄がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体法人の栄養士のたてた献立を参考に自家菜園で育てた野菜、地元の旬のものなどを取り入れたメニューを作成しており、栄養バランスには配慮されている。食事量、水分量とも一覧表を作り把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体にゆったりとした造りで、どの部屋も窓を大きくとり、外の緑に包まれて過ごせる。昔の屋敷に一部手を加え、増築したもので木がふんだんに使用されており、安らぎとなる空間となっている。レイアウトの変更等利用者の希望に応じている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした部屋に馴染みのタンス、飾り棚等が持ち込まれ居心地の良い空間になっている。園長が一人ひとりに描いてくれた似顔絵をそれぞれ額に入れたり、壁に飾ったりして一人ひとりが尊重された生活を楽しんでいる様子うかがえる。		